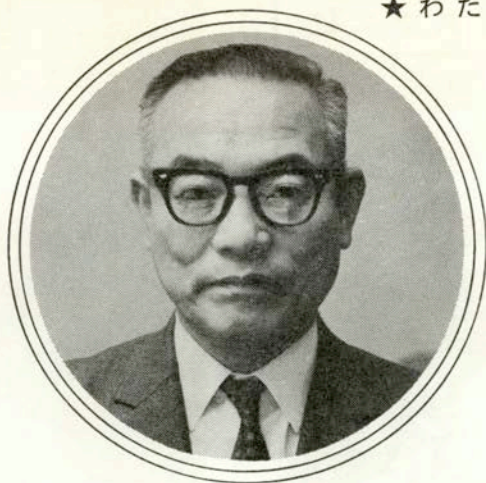


洗練された感覚で
新たな電波を



平 工 義 明

〈NHK神戸放送局長〉

★洗練された街の感覚は新たな電波を欲している

大阪生まれの大阪育ちの私が、昨年八月前任地の和歌山局から神戸局にきて驚いたのが、大阪平野に囲まれる大阪の混沌と異なり、東西に海と山を荷って帯を描いている「神戸の街」の姿です。この明かるさの中に住み良さがあり、それは無形の価値を持っています。感覚的に洗練されていると同時に、環境的にも神戸は再開発がなされ、大阪が万国博で急激な、それだけ歪みの生じやすい発展を上げているのに比して、神戸の、それも原口前市長の構想は偉大なものであり、ここ数年の都市のエネルギーに再び感動させられる時がくるでしょう。

こういう街に、神戸放送局がありながら、現実には独自の電波がなく、大阪からの電波に近畿二府四県が甘んじているのは、電波の広域性を高めるためにも、また電波の公共性を享受するためにも不合理なことです。

★一県一局主義でローカルティを生かさう！

現在、電波は東京、名古屋、大阪を核として流れ、また経済的にもそれぞれの地域で大きな圏ができるだろうが、そうしなければなるほど現在の電波の再分配が問題になるわけです。電波の公共性を考えると、県民にサービスをするという姿勢、これが一県一局主義です。行政規模が大きくなれば、それだけローカルを積極的に生かす必要がある。この一県一局主義による神戸放送局の独自の電波がブラウン管に流れることにより、経済圏、行政圏の中で、本当に地域を考慮することができ、地域の向上を目指すことができる。まだ独自の電波を持たない神戸放送局だが、放送法の範囲内でしか地域文化への事業参加ができないのをもどかしく思っている。しかし、兵庫県下に姫路放送局と協同で四一カ所のUHF中継所を設けるなど、全国的にトップクラスの設備を誇っている。

都市再開発、高速道路の建設、高層ビルによる電波障害の波が神戸にもおしよせてきた。きめの細かい技術指導で受信者と施工者の相互理解を計っている。このことが一県一局の何よりも基盤であると思う次第だ。

楽しいホームクリスマスに



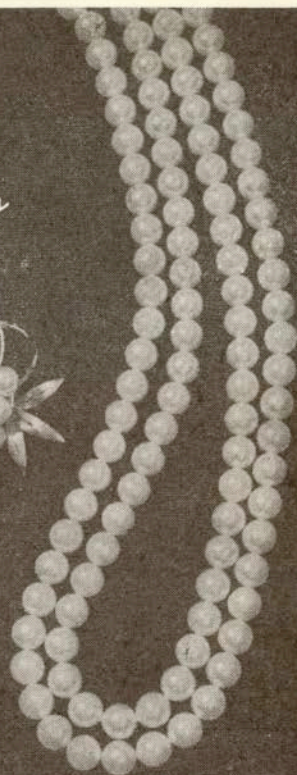
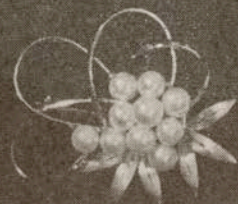
★洋菓子の★

ヒロタ

クリスマスケーキ

元町店 三宮店 さんちか店 そごう店
33-2340 32-1227 39-3474 22-4181代

世界の人々に
愛される
キタムラパール



Kitamura Pearls

北村真珠店

元町通2丁目60 TEL 33-0072

随想三題



わ

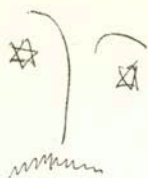
カット・津高和一

室内装飾

のことなど

クロード・ヴァレンヌ

〈室内装飾家・関西学院大学講師〉



九年前、日本にきて以来、東京神戸などで、時折、室内装飾をしてきましたが、今ここに機会を得て、日本の室内装飾、特に喫茶店やバー、近代住宅などのそれにつ

いてお話ししたいと思います。

室内装飾の点から、日本の喫茶店などについていえることは、概して驚嘆に値するようなものが少ないということです。ほとんどの喫茶店をとってみても、壁にはいろいろの照明器具や小さなアクセサリーが雑居し、沢山の色が不調和に用いられ、日本古来の芸術的伝統精神である単純性がまったく忘れられているようです。

ただ単に、近代的なもの、西洋的なものばかりを求め、エキゾチックであるという理由で、それが必ずや美しいもの、良いものとして受けとめられているのです。

古来、日本における美の概念は

単純であること、簡素であることが第一条件でした。そこから「侘び」「さび」の概念が生まれ、磨きぬかれた美しさが生まれてきました。

このようにすばらしい伝統を持つ日本人が、祖先の文化的遺産を捨て、新しいものばかりを良しとすることに、私は疑問を持つのです。美しさは形でなく、その形を生む心にあります。

もちろん、近代的なもの、西洋的なものの中にも、美しいものが沢山あるでしょう。しかしそれらが、単純性、調和性を忘れて用いられるとき、私は日本人が自分達の内に無意識に持っている伝統的美的感覚を忘れているようにと考えるのです。

日本古来の伝統芸術に求めることができる日本人の美に対する精神、感覚は今もなお、日本人の中に受け継がれているにもかかわらず、室内装飾に関しては、ただエキゾチックというだけで、深い思索なしに行なわれているように思えます。

日本人の日常生活の中で、意識されることなく、そのまわりに当り前にころがっている美しいもの、そういうものが、もう一度見直され、そしてそれが室内装飾に生かされ利用されるとき、私はそこに実にすばらしい日本的室内装飾が

生まれてくると思うのです。

ところが残念ながら、日本の室内装飾の大部分は、その伝統の豊かさを再認識していないのです。

例えば、ふすま、障子、床の間、こたつなど実にすばらしいものですが、近代的西洋的なものであるスカンジナビアの家具と、これらの日本伝来のもの、また民芸品や減びかかろうとしている民具にいたるまで——とのとり合わせはそのものの自体の美しさを強調すると考えるのです。

芸術と伝統を誇り、それが世界中に知られ認められている日本が近代主義の中に埋没しないようにすなわち物質的利益がわれわれを無意識的動作の内に埋没させてしまわないように、またわれわれ人間が人間性を欠いた、あるいは趣味のないロボットと化してしまわないように、私は心から願っているのです。

神戸に思うこと

土居文治

〔土居自動車工業専務取締役
神戸青年会議所 副理事長〕



おくれ咲きの木犀の香りに、ふと秋を感じ空を仰げば、青空に白雲がたなびき、千舟行き交うおだやかな瀬戸の海を眺め、久し振りの休日にしみじみと神戸っ子の幸せを想う一日でありました。神戸は豊かな環境にある街です。

やがてこの海に世界一の橋がかかり、淡路の上空にジャンボジェットが舞い降り飛び立つ日に想いを走らせ、胸を大きくふくらませるにつけ、偉大なる前市長原口さんにおしめない感謝の拍手をおくる一人でもあります。幸せな神戸市民が明るく豊かな神戸で、自由を平和を満喫する、そんな日のために永い間本当にご苦労様でした。

「江戸っ子だってねえ」「神田の生まれよ」と將軍様のお膝もとを誇りとした江戸の市民とニュアンスこそちがえ、「神戸っ子だい」と胸を張って世界中を闊歩できる。神戸がそんな郷土になっほしいと願うのは果して欲深でしょうか。いや、なっほしいではなく、そんな郷土にしようではないかというのが神戸っ子の若き集団青年会議所の一つの行き方でもあります。そして、今年で十一年目をむかえた神戸青年会議所の力は街造りの新たな伝統に入りつつあります。

街造りは進み、神戸っ子自慢の

数々が正に生まれようとしています。ポートアイランドと神戸大橋を中心とする港湾施設、情報センターとしての貿易センタービル、セクター街、神戸駅周辺、新長田地区等々の市街地改造、阪神高速、六甲トンネル、神明バイパス、西神戸有料道路その他の道路網は明石鳴門にのびようとし、淡路には大国際空港が生まれようとしています。そして神戸は西日本の核となり瀬戸内海メカロポリスのリーダーとなる位置づけがなされんとしています。しかし、器ができたとしても、中味を造るのはあくまでも私達市民であることは当然でありましょう。神戸港の輸出入実績が横浜を追い抜きふたたび全国第一位の地位を回復させ繁栄した街にするのも、住みよく働きよい街にするのも市民一人一人の努力と自覚以外の何物でもないでしょう。

今年度、青年会議所運動で「日本の安全と防衛」というテーマに取り組んできた過程で生まれた「逃避や無関心から平和で安全な日本が生まれるだろうか」という市民運動は、そのまま「逃避や無関心から明るく住みよい神戸が生まれるだろうか」とおきかえることもできるのではないのでしょうか。

それは神戸市民の心がけ一人一人に終局的には行くのですが、そこに至る過程における神戸青年会

議所ならびに日本青年会議所運動に大なる期待をしたいものです。秋晴れのすばらしい休日、平和なよろこびを感じながら、新たな反省をおぼえた私であります。

私は

のじぎくの花を

選ぶ

貞松 融

△貞松・浜田バレエ団代表△



私のおやじは、昔の第一神港商業出身で、灘がまだ西灘村とよばれたところに育った。学生ころ弁当をさげて新聞地まで映画のブロマイドを見に行った話は忘れられない。もちろん、下駄か草履で歩いて往復するわけだ。当時摩耶小学校も池や竹やぶや野原だったと聞いている。

私が小学生のころは、神様がいになるという東の空に向かって、毎日礼拝し、体操の時間には澄みきった空を見上げて、おもいきり深呼吸をしたものだ。

私の息子は、今摩耶幼稚園に行っている。そして僕らのころの神様は、すでにその座から降りて人間になられた。それ以来、私は神様を信じなくなったのだが……。

そして一方、あの素晴らしい深呼吸の方は、スモッグが立ちこめる濁った空気の中では、どうにもする気になれないでいる。

親子三代のふるさと、神戸の未来は決して明るくはない。物質やお金が生きていても、人間は棲息していない。見せかけの繁栄の中で子供たちやお年寄りが泣く。人間不毛の地、神戸に明りを取戻すのは誰だろうか。

私は躍進する神戸、繁栄する兵庫県とは、県民を横系に、市民を縦系に、地方自治点の県や市を始めとする公共団体、組合、新聞社を斜系に、しっかりと織りなされて始めて可能であると信じている世界的な視野に立つてとか、日本的な立場に立つとかで、県民市民を巨大な交通網のガード下に追いやられては、人間としての本当の生活はなくなる。例えば、日本一多い結核患者の地区を持つ神戸、益々増える交通事故、スモッグはすでに公害となり、子供の遊び場保育園、老人ホーム、老人年金、いずれの対策も乏しい。その上物価はどんどん上ってゆく。そんな中で地方の自治、文化はますます

やせ細ってゆくばかりである。

私たちバレエ団が去る10月11日に神戸国際会館で△日本のバレエ△の特別公演をもった。こんなさやかな公演も、県下の農村を訪ね、祭りに参加し、五年の歳月を費やしてやっとまとめたものである。毎日の稽古に必要な稽古場をもつことも大変なことであり、やっと仕上げた作品の公演も、劇場費や照明、装置と膨大な経費を必要とする。私たちを取り巻く温かい人々の理解と励ましによって、どうやら乗り切ることができたが地方の文化を保護、育成しなければならぬ、自治体の県や市は、一滴の涙ほどの援助も顧みてはくれなかった。しかしそれでも私はふるさと神戸、祖国日本を愛している。そこに私たちの△日本のバレエ△の花を咲かせたいのだ。そしてその気持は、神戸でなお踏みとどまって、美術に、演劇に、文学に、またバレエにと志し活躍されている者にとつての唯一の寄りどころだと思ふ。

私は「白鳥の湖」の華麗さにも似た西洋のカトレアの花よりも、須磨浦に汐風をあびて可憐に咲く神戸の花、のじぎくの花を育てたいのだ。

私は、「カトレアの花」よりも「のじぎくの花」を選ぶ。



★ある集い—その足あと

神戸土曜会合唱団

「生くとし生くるなる人 みな友よ」ベートーベンの第九交響曲の終楽章。壮大な二重フーガのあと、私たちはこのアダジオを幸福感到酔いながら歌う。四重唱により繰返されてから、プレスチシモのテンポで、

「歓喜よ 天つ乙女よ 天なる焰よ」と全身全霊で歌いながら、私たちは最強奏のオーケストラに乗って、満堂の聴衆とともに、天翔るように無我の境に入っていく。

神戸土曜会合唱団の兵庫県芸術祭「第九交響曲の夕」の出演は、今年で七年目になる。年末になる

と「第九」を歌うことによって、私たちは合唱する者にのみ与えられる精神的ボーナス袋を手にするのを楽しみにしている。

神戸土曜会合唱団が敗戦の焦土に果立ってはや二十三年。ミサやレクエムなど宗教曲の大曲と、邦人作品を中心にしたプログラムによるリサイタルも今年で十五回を数える。一昨年ははからずも兵庫県文化賞受賞の栄に浴した。

昭和二十年代の日本の社会で、楽器いらずに手軽に出来る合唱は文化国家建設の一翼をになうという注文にぴたりなかったものだった。雨後の筍のように輩出した合唱団は、レジャールの多様化現象などに悩まされることなく、それぞれ大いに栄えた。この合唱ブームも昭和三十年を境にして整理期に入った。当時の雑誌「知性」に「一般合唱団の将来」と題する注目すべき論文がのり、その中で次の趣旨の予言は見事適中した。

「戦後誕生した多くの合唱団は近い将来次の三つの型に整理される。第一は地域別に集った青年男女が、フォークダンスやハイキングとともに合唱も楽しむグループ。次に政治的主張や信仰を同じくする人たちの合唱グループ。第三に純粹に音楽を追求して練習にげみ、レクリエーションも音楽のための手段にするという合唱

団。第三の型は一都市にせいぜい一、二しか存在しなくなるだろう。」

私たちは土曜会をこの純粹に音楽を追求する合唱団に成長させようと決心し、「よりよい音楽を求めて」というスローガンを掲げ、努力を重ねて来た。これに戦後の小中学校の音楽教育の進歩による団員の質の向上が幸じて今日に至った。

私たちの合唱団はかくれた社会教育機関として大きな役割を果たしていると自負している。現在百名近いメンバーを擁し、創立以来の在籍メンバーは三千名に近い。これらの青年男女は音楽大学の合唱の教科にまさるとも劣らぬ高度の音楽教養を身につけ、団体生活を通じて知らず知らずのうちに社会的訓練を受けている。その上二十組以上のカップルが生まれるという思わぬ副産物であった。

今私たちが切に求めているのは場所と人である。場所とは練習場。私たちは神戸市に向って文化活動の中心である理想的な練習場を持つ文化会館建設を切望する。

人とは私たちとともに歌うメンバー。合唱音楽を愛し、歌うことに情熱を持つ方なら、いつでも、どんなたでも歓迎する。

■合唱団事務所
神戸市灘区篠原北町一丁目十一

影山明方

Merry
Christmas



クリスマスケーキのお予約はお早めにどうぞ

北欧の銘菓

ユーハイム
コンフェクト

三宮センター店 / 神戸三宮センター街 (洋菓子・喫茶・バー) /
TEL-33-2421 / 生田店 / 神戸三宮生田筋・さんちか店 / 三宮
地下街スイーツタウン・神戸デパート店・垂水店 / 国鉄垂水駅シ
ョッピングセンター・甲子園店 / 国鉄甲子園口 (北)・元町店 / 三
越前・堂島営業所 / 大阪堂島中町ビル・芦屋店・梅田店・千種工
場 / 名古屋市中区若水町・栄町店 / 名古屋・大丸店 / 神戸阪急
店 / 神戸・大阪そごう店 / 神戸・三越店 / 神戸・オリエンタル
中村店 / 名古屋・丸栄店 / 名古屋・丸物店 / 豊橋・松菱店 / 津・
大洋デパート / 今治・大阪国際空港・鉄道弘済会 / 神戸・三宮・
明石ステーションセンター・姫路駅デパート

OPEN!

ごあんない

TOKYO OSAKA

スギヤ11月23日 ★ スギヤ12月1日



星が美しいクリスマスが近づきました。皆さまにはいかがお過ごしでございますか。さてこのたび、いつもお引立ていただいております《スギヤ》が東京と大阪に、ささやかなお店を出すチャンスに恵まれました。K O B E のユニークなセンスをT O K Y O ・ O S A K A にくりひろげますので、お出ましの際にぜひお立寄り下さいませ。なお、神戸店と同様にご愛顧下さいますようお願いいたします。



★
スギヤ

本 店 神戸市生田区三宮町3-15 電話 078(33)3436

六甲店 神戸阪急六甲駅構内ファミリストア 電話078372731

東京店 バルコ・スギヤ池袋〈午前10時〜午後8時迄〉

東京都豊島区南池袋1-28-2 バルコ地下1階 電話03(987)0567

大阪店 阪急3番街〈午前10時〜午後9時迄〉

大阪市梅田阪急3番街地下1階 電話06(372)4877

Merry
Christmas

■大和屋シャツ
クリスマス
コレクション
ごあんない

11月25日→12月10日迄

大和屋シャツ国際店

A.M.10:00 - P.M.7:00

〈月曜日はお休みです〉

紳士シャツの店

大和屋シャツ

■国際店 ■カスタムシャツのアトリエ
神戸国際会館1階 TEL25-0220

AM10:00～PM7:00

■三宮店 ■紳士シャツ専門店

三宮センター街 TEL33-6956

AM10:00～PM8:00



△ 山 に新らしいお店
が誕生しました！

神戸 / 貿易センタービル〈B1〉

TWENTY SIX Belle

ツェンティシックス △ 山

大阪 / 阪急地下街三番街〈B2〉

〈川のある町〉

RIVER SIDE Belle

リバーサイド △ 山

□れんさいずいそう V

花隈哀愁

林田 重五郎／随筆家・写真も、V



地下が駐車場とは思えない花隈城址の噴水

村上華岳さんにお目にかかったことがある。どの坂であったか、今は忘れてしまったが、花隈の坂をあがって、露路を西の方へはいると、大きな門があった。くぐり戸を開き、敷石を歩いて、武家屋敷のような古めかしい玄関を通った。

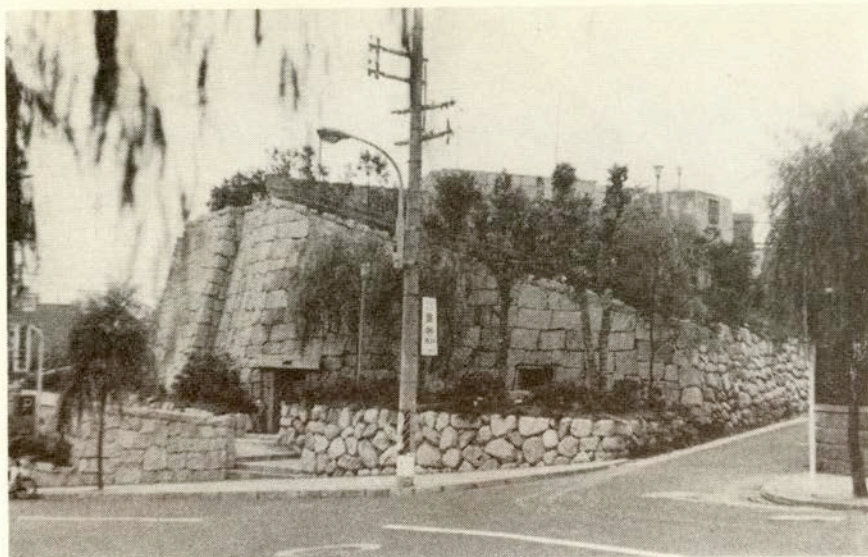
中国製らしい黒檀のイスに、和服でうちわを持って坐っておられた。顔が白かった。亡くなる三年前であるから、御病氣も進んでいたのかも知れない。眼鏡をかけられた眼は、きびしく澄み切っていた。

恥しい話だが、当時のわたくしは華岳さんが、いま日本で最高峰といわれているほどの、超大家とは知らなかった。ただあの眼光だけは、いまも思い出すほど、鋭く美しかった。もう三十三年の昔ではあるが……。

お話を一時間近くも、うかがった。中央アジア、小アジア……チベット、新疆あたりに、非常にあこがれを持っているとの内容だった。紫檀の書棚などには、そんな関係の出版物がいっぱい、日本に二、三冊しかない珍しい本も、その中にはあるとのことだった。体さえよければ歩いて見たい

のだが、旅行記でたのしむしかない、と嘆かれた
「今ではアジアのこれらの地区を思うことは趣味以上、生甲斐といってよいほどだ。本職の絵にしても、こんな気持の上の、一つの表現といってよいほどだ」。

そう結ばれた。あの気魄のこもった仏画、複製の美術書で華岳さんの絵に会うたびに、眼と、そして口ヒゲとお話を思い出すのである。



花隈城址にヤナギがわびしい

花隈——Mの家、若い新聞記者ながら、支局長にときどき連れて行ってもらって、当時を知っている。美しかった、しかし手の届かぬ美しさでもあった。もちろん部下をおごることに社費は使えぬ会社だから、支局長の出費は大変だったことと今もって有難く思っている。社用族ではなかったのである。

従軍から帰り、出張旅費が相当な黒字になったので、社内、社外の友人をさそい、二度自分の金でMの家へ行ったことがある。数人数時間で五十円であった。常連ではないので現金で払ったが、考えて見ると当時の月収の半分である。身のほどを知らぬ豪遊である。

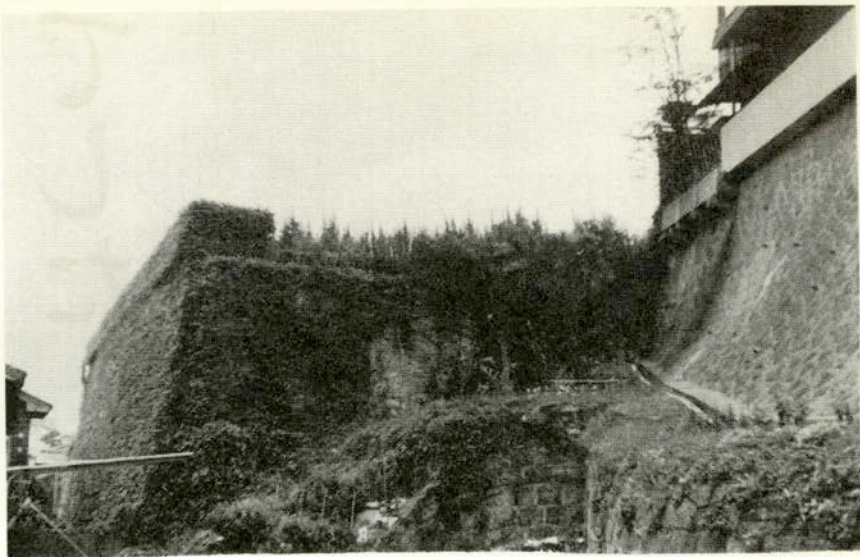
戦争直後、復活したばかりの花隈で、一、二度社用の宴を張ったことがある。ここで使う金と、月給との開きは、戦前以上のケタ外れになっていた。

今の花隈は、ほとんど社用の金で成立っているのではなからうか。どんなに金が余っても、（そんなことは永遠になからうが）自分の金で花隈の坂をのぼろうとは、決して思わない。社用でのぼることも再びありそうにもない。無縁の土地になった花隈の花街ではある。



そのMの家への坂道、左手にあったのが花隈ダンス・ホール。

ダンス・ホールに対する行政くらい、いまから考えて珍妙なものはない。大阪府ではフグと同じく禁制。兵庫県は国際港があるというわけか、許可されていて、大阪市と川一つ隔てた尼崎にはホールがあり、神戸市には花隈のほかに



この台地がダンスホールの跡か、それとも南のH会館が跡か

三宮のソシアルとキャピトル、元居留地の倉庫の二階のダイヤと計四ホールがあった。

ホールでは酒もビールも一切禁止、飲みたくなれば坂を走り下って、坂の入口にあった梅月というウドン屋でコップをあふって、またホールへ駆け戻る。そのかわりカフェではダンスは禁止、女給と踊っていようものなら警官に叱られる時代である。

ホールでは四、五十人のダンサーがバンドを背にイスに坐っている。チケットの売上げの多いナンバー・ワンの席を中心にして、成績順に整列である。演奏が始まると同時に、客は目指すダンサーの前に走り寄って、頭を下げてダンスを申込む。客同志がカチ合って、一瞬遅れた方がスゴスゴ自席へ引揚げる風景や、体裁もかまわず残っているダンサーに転向するのはザラだ。

トロット、ブルース、タンゴ、ワルツ：バンドの切れ目にもダンサーは手離さず、踊り続けるのもいる。馴染みをこの手で独占されて、いつまでも客席で天井を仰ぐ恋仇も出るわけである。目前のフロアで恋人と客が踊っているのが見えるのだから、ホールの恋の切なさは大変なものだったろう。

昭和十一年春、昼券は十銭で店とダンサーの歩合いは五対五、六時半から夜券にかわり十五銭で歩合は四対六、遅刻一時間につき三十銭の罰金などの規則になっている。売れっ子は一夜に何十キロも背面行進する計算になるが、一度にチケットを何枚もわたす豪遊客もあり、月収何百円、サラリーマンの数倍というのはザラにいた。いまはこんな様式のホールはない。



花隈の地下鉄の駅を出て、思い出の坂をあがる。ダンサーたちはどこへ行ったのであろうか。ホールの跡は、Mの家の南の、ツタの茂る台地であらうか、H会館がそれであらうか。三十年は夢と幻の昔である。

港町兵庫

は好き でした

寺島 紫明（カットも）



私の十に五才のころまでは、須磨も舞子も松が茂り合い、一の谷などは、小山ぐらいのようであったと思ひ浮かんできます。

よくもまあ、これはどの変り方と、舞子の海岸の景色がむかしの美しさだけに、いたいたしい限りと見ています。

兵庫という言葉も、地方にいては聞かなくなりました。私の父や叔父は、よく兵庫兵庫という言葉をつかっていたように思います。

小さくなった兵庫の駅におどろくとともに、神戸の駅から、楠公像、相生橋、元町の西の方の入口と久々に見て、おどろいています。

三宮ばかりの神戸づくりが日に日に、はなやかになっていくのは仕方のないことでしょうか。この辺りも今一度と思います。

木を切り、山をけずり、川をうずめての街づくりは、先々では良いことと思いますが、今、目の前にそれを見てはさびしくなります。

外人客が船から京都、奈良へと素通りするもの無理のないことです。

神戸は住みよいところと聞いています。月に三度ほどしか行きませんが、関東のように、どことなくわびしいようなこともなく、明るい陽気なところで好きな都会と思っています。

今日、どうなっておりますか知りませんが、子供のころに見た兵庫の町々、あの港町のおいと味がなつかしく、たしか舟を並べたような橋の上を渡るときのこわさ、おもしろさ思い出されます。

大人になってからよく行ききた頃の兵庫は、

もう神戸にすいとられたあとの町のさまでありましたが、なお残る古さという落着きがありました。戦後はいつも車で素通りで、一度も行っておりません。

小さな工場のたくさんある町になっているとききますが、伊藤博文公がさかんに遊んだという、奈良屋という茶屋の全盛のころとはいかずとも、三宮の今様とは違う味のある町づくりを、古い兵庫に見たいものと、夢ものがたりめく願いでもあります。

□随想□

かわいそうわ

私

甲斐勝郎
え・津高和一

序 詞

これは及川英雄という、もうつき合ってから四十余年にもなる、旧酒友が、「半どん」誌上に、私の

神戸へくる外人客の一時の足どりにもなりましよう。

足どまりといえば、須磨の離宮の、あれだけの見事な土地を洋風に作りかえたのがおしまれます。あとの祭りながら、日本の最高の庭づくりにしておきたかったと悔やまれます。

神戸は百年、兵庫のみなと町は何百年の古さをもつ土地です。

△日本画家▽



ことを「家業は大切に継いでいるが、根からの商人ではない」と書いたのに対する、私の肯定とも否定ともつかない、半可通な“回答文”である。

士族の商法どころか、文科出のサラリーマンだ、と三十数年前、就職の挨拶状を出したことを今でも覚えてる。

「フウン！お前、まだ商売やってんのか？」と旧友悪友酒友から、いまだに疑われている。いわれてみて、今さらのように「コラ！お前もやっぱりか」と思い、また「ナルホドごもつともなことだ」と、自分ながらカンシンしている……。

—それほど、いまだにわれながら「商売」が板につかない……。だが、たまには——これでも！と、瘦我慢を張りたくなる。

「こう見えてもズブのトーシローじゃござんせん。レッキとして、数年間は年季も入れたんでゴザンスヨ！」と、自棄に威張っても見たくなくなる……。

——正に、匹夫の勇、田作の歯きしり。エエ年令をしながら（全くオトナゲないことだけど）ちょっとは真相を知って貰いたい心充分。

——だから、「かわいそうや・私」

アリテイにいえば、私は今、「手で掴めないもの」の海上輸送を扱っている。これをもっと具体的にいうなら「液体化学工業薬品」の輸送である。……：タライのような、ちいぢやな舟に、チョッピリ鉄のタンクを載っけて、その所謂「液体」なる、危険物を海上運搬しているのである。——もちろん、ほとんど全部が「瀬戸内」で、せいぜい伊勢湾・西九州方面へ航けば、実に「遠洋航海」なのである。

私は、ある大学の文学部（国文科）を卒業して、すぐ「回漕屋」に勤めさせられた。今でいう「乙

仲」すなわち「乙種海運仲立業」である。その見習い店員としてである。

親爺が早速。

「回漕屋は夜八時までは絶対に家へ帰れないぞ！日曜祭日など、とんでもない！」といった言葉はいまだに忘れない。そうして事実、夜八時過ぎまで仕事のない「回漕屋」はどこにもないと、この身で感じ、日本ほど日曜祭日（旗日）があり過ぎることを、切実に思い知らされたことはない。しかも、土曜日の半どんには、いつも泣かされ苦しめられた。——こんなことが、いまさらのようになつかしく思い出されてくる。……昭和もいまだ一ケタのころ。

税関に出入りするため、許可願いを出したら、お役人が、私の履歴書を怪訝そうに見て「大学出の回漕屋さんか……！しかも文学士とはねえ……！」と、いかにも大丈夫か？！といわんばかりの憫笑的表情があざやかに思い浮かぶ……：それほど、回漕屋は「かわいそうや」であつたのだ。（この感はずいぶん仕事に馴れるほどよい実感として身に沁みた）

回漕屋は、実に、荷主・税関・船会社、所謂この「三つのもの」には絶対に勝てなかった。しかもそのころから、もう輸出品が何処のうわや（上屋・倉庫）にも物凄いいハンラン、てんやわんやといつて過言ではなかった。

畢境、旗日とてなく、また実に半どんが鬼門だったのだ。（この訳は、いさら喋々する要はないでしょう。）

——こうした私のアプレンティス（丁稚奉公）の時代だった……。

「回漕屋は人だ。その人に荷主がくる」という不文律がある。私にもようやっと、そうした特定なお得意さんが附きだした。これが外人さん。随分世話厄介になったし、私にはとてもいい経験になった。ダイモン(ダイヤモンド)、ウロコ(三角)マーク。さてはツツミマークとか、色々と職業語も自然と耳に馴れ、FOBとCIFの附帯費用の関係。他所積・甲板積・らく積・危険品扱・別解等々。また、当時の船会社のしきたり・伝統・癖・方法・仕草等々を教えられるともなく覚えていった。しかもナカマやセンドウ衆と段々と顔見しりが増え、仲良くなっていった……。

今、そんな思い出が、みんな美しくなっているのはどうしたことか。——あれだけの苦しみと辛棒だけが、身に心に肌に、泌みこんで、すでに自分だけの皺となってしまうたかも知れない。

戦争・戦中・敗戦・戦後——戦時統制令で、おのがじし夫々の合併吸収が、そのままの体制で、“乙種仲立業”と改名。どうやら名前だけは、いかつく立派だったが、なかなか内容は復元し得なかった。

が、朝鮮動乱から御多分に洩れず、ようやく息を取り戻し、新しい仕事もボツボツ抬頭してきた。しかし、個人型の限界は次第に薄れ、物すべて“数量的物理的”な拡大となり、組織力、資金力が圧倒的な權威を持ってきた。つまり“個人”ではもうアカンのであった。到底それでは、この時相にはついてゆけなくなってきた。所謂、資力が先づ率先する時代と変化してしまった……。

私は、そんな時勢に追われながらも、顎を出し

出し、なんとなく今を生きている。業態はいささか変移したが、いまだに“父業”の御蔭を蒙り、まあいくらかは脊伸びでき得る。それが「手で掴めないもの」の海上輸送である。宿命とも運命ともいえるかも知れないが、私にはこれより術のない自分の“力”を知っている。否“非力”を識っている……。

学生時代、一番苦手な理科系統の、しかもバケ学という“もの”を今にして、嫌でも応でも(仮令皮相ながら)覚えておらねばならない始末。(いや覚えさせられたかも)その上、あるいはトカマのカマトト的にも立振るわねばならないときもある仕儀。自分ながら泌々と愛想も尽きることがある……がこれもショウバイと、自らを慰め納得させている。

硫酸に濃淡があり、塩酸には絶対にゴムライニングが要り、比重が1・8とか1・4とか、およそ“生活の実体”には縁遠いことに鞭打たれ“それでも私は行か”ねばならない。潮汐表・汐順・零・わい汐・水深等々——ついではながら、船頭衆のお国言葉も話せばならない。もちろんその家族のことも。でないと断じて心は通わない。なにも自分だけが仕事をしているのではないから……。

そうして今に至るまで、あの H_2SO_4 ・ NaOH ・ CaO ・ Na_2CO_3 などの小面憎い化学方程式が、奇体にそして執拗に、私を睥睨し、かつ相も変わらさず、エヘラエヘラと蔑笑しているようにしか思えてならない。

噫！実に実に、私は狙われている——。

あるいは、いまだに死せる親爺、この豚児を走(わし)らす！であろうか。

「かわいそうや・私」。

△甲斐汽船社長▽



MERRY
CHRISTMAS

真心とセンスをお贈り下さい。



アナタに
心をこめて……

あなたの真心と
マックのセンスを
金の包装紙と
金のシールで
ステキに
おつつみします。

MEN'S SHOP
若人の服飾

MAC

- ★本部 / 神戸市生田区三宮町1丁目32 / TEL39-0991
- ★三宮店 / 神戸三宮センター街 / TEL39-0895
- ★トアロード店 / 神戸三宮センター街西口 / TEL39-0896
- ★新開地店 / 神戸新開地本通 / TEL55-7688
- ★姫路店 / 姫路・姫路駅デパート2階 / TEL23-1261(代)〈内線60〉
- ★京都店 / 京都藤井大丸2階 / TEL21-8181(代)

KOBE  SHIRT

直輸入・舶来シャツ生地入荷致しました



よろず御機衣縫上処

神戸シャツ

- | | |
|-----------------|---------------|
| 神戸店 - 神戸大丸前 | 33-2168 |
| 東京店 - 東急・日本橋店1階 | 211-0511内線219 |
| 東急・渋谷本店6階 | 462-3433 |
| 広島店 - 広島・福屋1階 | 47-6111内線333 |